

第5・6学年 図画工作科学習指導案

日 時：平成27年6月26日(金) 5校時

場 所：体育館

児 童：計13名（5学年7名，6学年6名）

授業者：繁 田 賢 治

研究主題：「自らの考えや思いをもち、意欲的に学習に取り組む子どもの育成」
個人研究テーマ「複式学級における図画工作の指導はどうあればよいか」

1 題材名 「くるくるクランク(工作に表す)」（日本文教出版5・6下）

2 題材設定の理由

(1) 題材について

本題材は、指導内容「A表現（2）ア 感じたこと、想像したこと、見たこと、伝え合いたいことから、表したいことを見つけて表すこと。イ 形や色、材料の特徴や構成の美しさなどの感じ、用途などを考えながら表し方を構想して表すこと。ウ 表したいことに合わせて、材料や用具の特徴を生かして使うとともに表現に適した方法などを組み合わせて表すこと。」、「B鑑賞（1）イ 感じたことや思ったことを話したり、友人と話し合ったりするなどして、表し方の変化、表現の意図や特徴などをとらえること。」、「共通事項（1）ア 自分の感覚や活動を通して、形や色、動きや奥行きなどの造形的な特徴をとらえること。イ 形や色などの造形的な特徴を基に、自分のイメージをもつこと。」を主として設定したものである。

児童にとって、感じたこと、想像したこと、見たこと、伝え合いたいことから表したいことを見つけて表すということは、それほど難しいことではない。ただ、形や色、材料の特徴から構成し、用途を考えながら構想を考え、組み合わせて表現する、形や色をとらえて自分なりのイメージをもち表現するということには、経験不足や面倒くささなどから難しいというイメージがあるようである。

本題材「くるくるクランク」は、はりがねを使ったクランクの仕組みを生かして、動きのある面白いおもちゃなどをつくる活動である。クランクの仕組みからつくりたいものの形や色をイメージしながら、つくりたいものを試しながら構想する過程も大事な内容である。また、全過程において友達と感想などを交流することは、自分の見方をはっきりともち、友達からの違った見方を得ることで、新しい感じ方に触れたりすることもできるであろう。

(2) 児童について

本学級は、児童が13名という複式学級としては人数が多く、個の図工の実態に関しては、非常に個人差が大きい。また、他教科も含めた学習の能力での著しい差もある。

児童は、これまでに「工作に表す活動」で、「コマコマアニメーションーめくれ！パラパラアニメーション」、「くねくね糸のこパズルービー玉のぼうけん」を題材として、「遊ぶもの、仕組みから思い付いたものをつくる」学習を経験してきた。

1学期始めに実施した図工に関するアンケートでは、「図工の時間が楽しい」「図工が好き」という児童が13名中11名であった。その後のアンケートでは、「楽しい」「好き」と答えた児童は11名と変わりはないが、「絵を描くことには抵抗がなくなったが工作はちょっと苦手である」というように、苦手な領域が絞られてきたことが分かる。また、道具等にかかわって、「ペンチを使ったことがある」と答えた児童は6年全員、5年は3名、「はりがねを切ったことのある」児童は5年が5名、6年は全員、「はりがねを曲げたことのある」児童は、5年が1名、6年は4名であった。今回のように、ペンチではりがねを曲げるという活動は初めての児童が多いことが分かった。

今回のアンケートでは、「友達のよいところを真似してみよう」「友達のよいところを見つけよう」という点では、4月当初の結果よりも、真似したり、よいところを取り入れたいと思う児童がかなり増えたが、「友達の作品などの良さ」を自分から伝えるというところまでには至っていない。

そこで、本題材では、いろいろな動きのあるおもちゃを製作する前に、十分にクランクの仕組みを理解させるとともに、安全指導を兼ねてはりがねをペンチで曲げる作業を練習させることとしたい。また、クランクの形状が1つではないので、試作させることで、自分なりのイメージをふくらませ、動きや変化のあるものにしていくという表現意図をしっかりとたせるとともに、製作途中での友達の工夫の良さを自分から伝えられるようにし、ともに作品を完成させた喜びを味わわせ、造形活動に対する意欲を高めたいと考えている。

(3) 指導について

本校研究主題をもとに、図画工作科では以下の視点をもって学習指導を展開していきたい。

①視点1 自らの考えや思いをもたせる複式指導の工夫 — 思いをふくらます

13名の複式学級ということと、個人差があることから、工作で表す活動において、自分の考えや思いをもたせる工夫をしていくこととする。

特に、個々の思いを大切にしつつ、友達のよさから新しい見方に触れることで、さらにより表現となるように、交流できる場面「ひらめきタイム」を授業展開の半ばに設定するようにしたい。

②視点2 意欲的に学習に取り組ませる複式指導の工夫 — 思いを形にする

構想をしっかりとしたものにするためのプランづくり（作品設計図、イメージスケッチ）を密に行い、材料や道具を確実に準備させ、自分なりの表現過程のイメージをもたせることで、完成への意欲もたせるようにさせていくようにしたい。

多様な材料・道具類を日常的に提示し、表現する段階ではその中から選択させることで、よりよいものにしていく意欲につなげたい。

図画工作科では、材料を通して、子ども達の感じる・気付くという感覚を鋭くすることが求められる。本題材の場合は、「クランクの工夫によってどんな面白い動きのあるものになるのか」という自分なりのイメージをもつことが大切であるとともに、単にクランクの仕組みをもとにしたおもちゃをつくる方法に出会うだけでなく、形や色の変化の面白さを見つけ、自分の作品にどのように使いたいかということだわりをもたせたい。また、ペンチを安全に使うことで、さまざまな形にはりがねの形状を変化させることができる技能的な面での喜びも体感させたい。

そこで、学習過程の中に、表現技能を高められるような場を設け、既習の技能や友達の考えを交流し合うことで、一人一人の子どもの思いが達成できると考える。そのために、本題材では計画の各展開の中に「ひらめきタイム」として自分の考えを交流する場を設定していきたい（視点1）。

本時の指導にあたっては、「導入」段階で、前時に紹介した作品例や友達の切り抜いた作品をみることで、表現意図のよさに気付かせ、いろいろな表現ができることに興味をもたせる（視点2）。

そして、「展開」段階では、自分の工夫をもとに表現しながら、「ひらめきタイム」を取り入れて子ども達の思いを広げられるようにする（視点1）。

「まとめ」の段階では、今日の活動を振り返って、板の形や色などの組合せやビー玉の転がり方のおもしろさや楽しさに気付くような視点をもって感想を交流できるようにしていきたい。

個の実態の差があるものの、複式学級であるので、5年の場合は、「簡単なクランクの仕組みを生かして動きのある面白いおもちゃなどをつくる」、6年場合は、さらに「クランクの仕組みを工夫

し、形や色を効果的に使って動きのあるおもちゃをつくる」ことを下位目標としたい（特別な支援を要する児童が6年に在籍しているので、実態に応じて簡単な作品となってもよいこととする）。

3 題材の目標

クランクの仕組みを生かして動きのある面白いおもちゃなどをつくる。

中学校の学習内容との関連： A表現（2），（3）に結び付いていく。仕組みをつくって動かすという条件を基に発想や構想し，見通しをもって表現する活動は，小学校から積み重ねた経験がとても大切である。

4 題材の評価規準

関心・意欲・態度	発想や構想の能力	創造的な技能	鑑賞の能力
クランクの仕組みを基に，動くおもちゃをつくることを楽しもうとしている。	クランクの仕組みを基に，その動きを生かしながらつくりたいものを考えている。	思いや考えに合った動きになるように，仕組みや飾り方を工夫している。	できた作品を動かしながら，クランクの仕組みの生かし方や動きの面白さなどを感じ取っている。

5 指導と評価の計画（6時間）

時	学習活動	評価規準・評価方法	
		B おおむね満足できる	Bに至らない児童への手立て
課外	事前に教科書の作品例をもとにイメージをもたせる。		
1	<p>くるくるクランク ～クランクの仕組みを知ろう</p> <ul style="list-style-type: none"> 教科書の掲載作品や材料等を見ることで，活動への関心・意欲を高める。 	<p>(関) クランクの仕組みを基に，動くおもちゃをつくることを楽しもうとしている。（観察）</p> <p>(想) クランクの仕組みを基に，その動きを生かしながらつくりたいものを考えている。（観察，対話）</p>	<p>○教科書の掲載作品や教師作品を示し，クランクの形状によって，上下左右などの違った面白い動きになることを示し，児童の工作に対する期待感をもたせる。</p>
2	<ul style="list-style-type: none"> 作品例（教科書，教師作品）を提示する。 「くるくる」という言葉からイメージを広げる。 <p>ペンチではりがねを曲げて，「クランク」を試作する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ペンチの安全な使い方や特徴を知り，はりがねを曲げる練習をする。 クランクを試作する。 <p>試作品をみて，どのようなクランクにするのかを想像してみたり，イメージスケッチをしてみたりして計画を立てる。</p>	<p>(技) 思いや考えに合った動きになるように，仕組みや飾り方を工夫している。（観察・作品）</p> <p>(鑑) できた作品を動かしながら，クランクの仕組みの生かし方や動きの面白さなどを感じ取っている。（対話，発表）</p>	<p>○「クランク」を実際に操作させて，動きの面白さを体感させ，製作イメージをふくらませる。</p> <p>○実際にペンチの使い方を示しながら，正しく使えば安全であることを練習を通して体感させる（1人1つのペンチを用意する）。</p> <p>○計画を立てられない場合</p>

	<p>★視点2—例示をもとに、自分なりに製作プランを考えて活動を進める。</p>	<p>Aと評価する例</p> <p>(想) クランクの仕組みを生かし、形や色を効果的に使ったアイデアあふれるものを考えている。(観察、対話)</p>	<p>は、試作品を改良してもよいことを話し、計画を立てられるような支援をする。</p>
<p>3</p> <p>4</p> <p>本時</p> <p>5</p> <p>6</p>	<p>くるくるクランク ～クランクの仕組みを使って、おもしろい動きのおもちゃをつくろう～</p> <ul style="list-style-type: none"> 計画をもとに、クランクの動きを工夫してつくる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> クランクの仕組みをつくり、動作を確認する。 クランクの動きを生かしながら、思い思いのクランクの動きをつくる。—「ひらめきタイム」 </div> <p>★視点1—自分の工夫や友達の工夫について、つくっているものを見せ合いながら活動を進める。</p> <ul style="list-style-type: none"> 自分が考えたアイデアをもとにして、工夫して表す <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> 材料の工夫 クランクの動きに合わせた形の工夫 色の工夫 </div> <p>★視点2—自分のつくりたいイメージに近づくようにいろいろな材料から工夫して表すように活動を進める。</p> <p>★視点1—自分の工夫や友達の工夫について、つくっているものを見せ合いながら活動を進める。</p> <ul style="list-style-type: none"> 互いの作品を紹介し合い、工夫したところの感想を話し合う。 	<p>(技) クランクの仕組みを生かして、思いや考えに合った動きになるように確かめながら材料や用具の使い方を工夫している。(観察・作品)</p> <p>○正しく使えば安全であることを再度確認し、不安があれば一度練習をさせるようにする。</p> <p>○クランクの動きが単調だったり、動きそのものになっていなかったりしたとき→友達の作品や教科書の作品例をもとに形を考えさせて、上下・左右など面白い動きとなるように、友達の作品の工夫などをみせて動きが面白いものにさせる。</p> <p>○自分の思いに合った表し方になるように、事前に材料を集めておくようにさせるが、製作過程で自分の思いにより近付けるために多くの材料を用意して選べるようにさせる。</p> <p>○友達の表現のよさを自分の表現に取り入れて、さらによいものにするように随時アドバイスをする。</p> <p>○友達の表現のよさを見付け、新しい工夫や真似したいことを具体的に伝えられるように、ポイントをしばって発表させるようにする。</p>	
<p>課外</p>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>全校児童への作品の紹介—コメントを入れて校内放送で紹介</p> </div>		

準備物	児童 - サインペン, はさみ, のり など 教師 - 色紙, 色画用紙, 針金 (18~20 番程度の使いやすいもの), ラジオペンチ, ストロー, 竹ぐし, 竹ひご, 見本の作品, ビデオカメラ など 児童・教師 - 空き箱, 牛乳パック, 包装紙, 身辺材 など
-----	--

6 本時の指導 (4/6時間)

(1) 目標

クランクの仕組みを使って, 自分が考えたアイデアをもとにして, 工夫して表すことができる。

(5年) クランクの仕組みを使って, 上下や左右の動きとなるように考え, 工夫している。

(6年) 多様なクランクの仕組みを使って, 面白い動きとなるように材料を工夫して表している。

(2) 展開

段階	学 習 活 動	指導上の留意点 支援(○) 視点(★) 評価(◆)
導入 3分	1 前時の活動を振り返る。 ・ よいところや面白いところを発表したり, 聞いたりする。 2 本時の学習内容を確認し, 学習の見通しをもつ。	○前時で製作したクランクを見せながら, 自分の思いを広げたり, 友達のよさを取り入れたりするようにする。 ○各自のそれぞれのよさや面白さを具体的に示して意欲を高めるようにする。
展開 前半 20分	3 自分が考えてつくったクランクの動きもとにして, 材料の形などを工夫して表す。 ・ 材料の工夫 ・ クランクの動きに合わせた形の工夫 (・形に色をぬったり, 絵に表したりする工夫一次時)	○事前に集めた材料だけでは, イメージに近付けないと予想されるので, クランクの動きに合うような形にするようにアドバイスをするとともに, いろいろな材料を用意して, 自分のイメージに近いものを選べるようにさせる。 ★ 視点2 —自分のつくりたいイメージに近づくようにいろいろな材料から工夫して表すように活動する。 ◆集めた材料から, 自分のつくりたいものにより近づくようにクランクの動きに合わせた工夫をしながら活動することができたか。(発想・構想)
後半 17分	■ひらめきタイム クランクの動きに合わせた自分の工夫について発表し, 交流する。 ・アイデアの交流をもとに, さらに活動を進める。	○発想をふくらませながら活動している児童や工夫の見られる児童を称賛し, 他の児童にも広めるようにし, よりよい表現方法(クランクにあった形の動き, 使っている材料等)を考えさせ, 表現する楽しさに気付かせる。 ○アイデアの交流をもとに, 思い付いたり, 考えたりしたことを進んで試すことができるように巡回しながらアドバイスをする。

<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">ま と め 5 分</p>	<p>4 今日の活動を振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・どんな工夫をしたか紹介する。 ・友達の作品に対する感想を発表する。 ・後片付けをする。 	<p>○活動が停滞している児童には、発想の手がかりになるようなアイデアを提示するとともに、教師も一緒になって活動をして、思いを広げられるようにする。</p> <p>★視点1 一クランクの動きをもとにした、自分の工夫や友達の工夫について、つくっているものを見せ合いながら活動を進める。</p> <p>○ビデオカメラで児童の作品のよいところを拡大して紹介する。</p> <p>◆自分で考えた工夫を紹介したり、友達の工夫のよさを見付けたりして、自分の思いを広げることができたか。（発想・構想）</p> <p>◆表したいことに合わせて形等の動きの変化を工夫しているか。（技能）。</p> <p>○工夫したところを説明できるように完成したときのことを想定した質問をする。</p> <p>◆自分の作品や友だちの作品のよさに気付き、互いに認め合うことができたか（鑑賞）。</p>
--	---	---